



8月の園だより

令和5年8月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

とても暑い7月でしたね。保育園では熱中症対策として暑さ指数を活動の基準にしています。指数計が危険域に達すると、室内のみの活動になりますので、なるべく早い時間での水遊びやプール遊びを行っています。保護者の皆様には、健康管理に加えて登園時間のご協力ありがとうございます。

さて、連日の暑さもあり、水遊びもプール遊びも盛り上がりを見せています。幼児クラスのプールでは、年齢が上がるごとに水位も高くなり、大胆になっていきます。そんな中、準備体操を終えた一人の子が一つ年下クラスのプール遊びを、真剣な眼差しで見つめていました。実は、水に顔を付けるのが苦手な子です。見つめる先には、大胆に潜ったり、蹴伸びのように体を浮かべたりする姿がありました。その後、いざ自分達がプールに入った時のこと、意を決したように口も目もギュッとつむると一瞬じゃぶりと顔を付け、慌てて顔をぬぐいました。すると今度は、蹴伸びをしている友達を見て同じように両手を伸ばしタイミングを取り始めました。保育士が少しだけ支えるとスツときれいに体を浮かべることができました。そこからは、楽しくて何度も何度も繰り返します。楽しいけれど苦手意識のあったプールが、楽しくて自信にもつながった瞬間でした。

日々、楽しみながら水に慣れていく遊びを保育士たちは工夫し展開しています。楽しい遊びの中で、子どもたちが自らのタイミングでやってみようと思えること、とても大切にしていきたい瞬間です。子どもたちにこの夏、そんな瞬間をたくさん作っていきたいと思います。今月は、裏面にて乳児クラスの水遊びの様子をお伝えします。



<行事予定>

プール開い

避難訓練・身体計測



現実と物語の世界を重ねて

春、2階の踊り場のボードにお月様と葉が一枚登場しました。暫くすると、3歳児が階段下で立ち止まり見上げていました。「どうしたの」と声を掛けると、葉にポツンとついたものを指さし「青虫くんの卵だよ」と教えてくれました。「そうなの」というと「うん、楽しみ」と嬉しそうに部屋に戻って行きました。その子は、小さい頃からよく見聞きしている絵本のお話だということに気がついたのです。後日「生まれたよ。ほらきて」と、青虫の絵柄に変わっていることを知らせてくれました。それから毎日見に行っては成長している青虫の絵柄を友達や保育士に「みて、みて」と、笑顔で知らせていました。乳児クラスの子どもたちも2階に上がる時に踊り場で立ち止まり「あったー」と指さして喜んでいました。5月、今年も園長がアゲハ蝶の幼虫を飼育し始めました。保護者と子どもと一緒にその成長の過程を楽しんでいる声が事務所まで聞こえてきました。6月、玄関の青虫はアゲハ蝶となり子どもたちに見送られ次々に飛び立って行きました。踊り場の青虫は蛹の絵柄になりましたが、なかなか羽化しません。子どもたちは「まだかなあ」とやきもきしながらも期待でいっぱい眼差しです。夏、蝶々になった絵柄を目にした瞬間「やったー」と歓声を上げていました。

実際のアゲハ蝶と、装飾のアゲハ蝶の成長過程を重ね合わせながら「次はこうなる」とその先に見えている姿をイメージ豊かに思い描き、ワクワクする経験を子どもたち、そして保護者も心弾ませながら見守った3か月だった事と思います。

副園長



0・1・2歳児クラスの水遊びの様子



ちゅうりっぷ組（0歳児）

少しずつ水に慣れていかれるように、保育士が「気持ちいいね。お水だよ」と、そっと掌で水をすくい子どもの手や足にかけていくと表情が柔らかくなり、自分から水に手を伸ばして水の冷たさや心地よさを感じる姿が見られるようになりました。月齢の大きい子は、柄杓をもって水をすくってはこぼしたり、そのうちにバケツですくっては大胆にこぼして遊んだりしています。月齢の小さな子はジョウロから出てくる水に手を伸ばしたりして落ちてくる水の感触を喜んだり、バットの水を保育士と一緒にパシヤパシヤ手を動かして楽しんでいます。

8月も、体調や安全面に十分気を付けながら、水の面白さや不思議さなどの子どもたちの気づきに共感しながら楽しんでいきたいと思います。



たんぼぼ組（1歳児）

テラスに出て水の入ったタライを見つけると、子どもたちは大喜びで手を入れてみたり、保育士が水面を叩くと真似して水しぶきを上げたりして楽しんでいます。遊んでいるうちに大胆になり、水しぶきがとび、「わあ、つめたい」と保育士が声を上げると同時に子どもたちも「つめたーい」と思わず顔を見合わせて笑いました。水の感触を楽しんだ後は、いろいろな形のカップに水を入れてはこぼすことを繰り返して楽しんでいました。水遊びに慣れてきた頃、大きいペットボトルに穴をあけたものを用意しました。保育士がボトルに水を入れるのを見て、子どもたちも一緒に水を入れていきます。水が溜まり、ボトルの横の穴から水が噴水のように出てくると目を輝かせて手や足で触れることを楽しんでいます。

今後も水を使って一緒に遊ぶ中で、水の感触を思い切り楽しみ、その中で子どもたちの発見にも共感し、興味を広げていきたいと思います。



ひまわり組（2歳児）

保育士が色水と無色のたらいをそれぞれ用意しました。すると子どもが色水を柄杓ですくって無色のたらいに入れ、「消えた」と色がなくなった事を不思議そうな表情で見つめていました。「ほんとだね、どこ行っちゃったんだろう」と保育士も不思議がると、色水を繰り返し足します。そのうち、うっすらと水の色が変わると「あっ、（色が）でた」と変化に気づき嬉しそうな表情となりました。今度は、もっと入れたらどうなるのだろうと思ったようで、更に色水を入れて変化を楽しんでいました。

色水が入ったたらいではスプーンで色水をペットボトルに移し替え「これは、ジュース」と目の前に置いたり、また隣の子は色水を入れたゼリーカップに「お砂糖入ってるの」とスプーンで少しずつ水を加えたりして「アイスできた」と置いていました。気づけば目の前にはたくさんの飲み物やデザートが並び、友達と顔を見合わせて「いっぱいね」と喜んでいました。

子どもたちの発見やイメージに共感しながら、水を使った遊びを存分に楽しんでいきます。

